

外国語教育メディア学会（LET） 関西支部 2024 年度秋季研究大会 プログラム



日 時： 2024 年 10 月 26 日（土） 10:00 ~ 17:10

場 所： 大阪教育大学天王寺キャンパス 西館
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88
https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus_map.html

主 催： 外国語教育メディア学会（LET） 関西支部
<https://www.let-kansai.org/>

事務局： 外国語教育メディア学会（LET） 関西支部事務局
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西大学外国語学部 田村 祐 研究室
E-mail: kansaiet@gmail.com

プログラム

- 9:30-15:00 受付■ 大阪教育大学天王寺キャンパス 西館講義室 D (204)
- 10:00-16:00 賛助会員展示■ 講義室 D (204)
- 10:00-10:15 開会行事■ 講義室 F (207-2) (ハイブリッド形式・オンライン参加可)
司会◆ 田村 祐 (事務局長・関西大学)
挨拶◆ 名部井 敏代 (支部長・関西大学)
- 10:15-11:45 基調講演■ 講義室 E・F (207-1,2) (ハイブリッド形式・オンライン参加可)
AI 時代の良い書き手の育て方：教師が目を向けるべきこととは
司会◆ 水本 篤 (関西大学)
講師◆ 保田 幸子 (神戸大学)
- 11:45-13:00 昼食
- 13:00-14:40 研究発表・実践報告・Classroom Tips ① 13:00-13:30 ② 13:35-14:05 ③ 14:10-14:40
- 第1室 (実践報告) ■ 講義室 E (207-1)
司会◆ 大澤 真也 (広島修道大学)
- ① [実践報告] Enhancing Language Learning through Pre-recorded Video Presentations and Digital Platforms: A Multimodal Approach
Nozawa, Kazunori (Ritsumeikan University)
- ② [研究発表] 能力の個性主義から相互行為主義へ：複言語・複文化的観点から
福島 祥行 (大阪公立大学)
- ③ [実践報告] 質問作りを取り入れた英語コミュニケーション I の授業：読む前に挿絵を活用して
戸田 行彦 (京都外国語大学)
- 第2室 (研究発表・Classroom Tips) ■ 講義室 F (207-2)
司会◆ 大和 和史 (関西大学)
- ① [CT30] 短大生のための英日翻訳授業のコツ：AI 翻訳ソフトに頼らない仕組み
白石 よしえ (近畿大学)
- ② [実践報告] 中高でのハイパー・ドキュメントを利用した考える授業デザイン：大学生による体験と評価
溝畑 保之 (桃山学院教育大学)
- ③ [CT15] 英語学習を習慣づけるために対面授業で e ラーニングを使用する利点
今村 梨沙 (関西大学 非常勤講師)

14:40-15:00

休憩（意見交換会および賛助会員展示）

15:00-17:00

シンポジウム■ 講義室 E・F (207-1,2)（ハイブリット形式・オンライン参加可）

AI時代のライティング活動：教師と学習者の立場から考える

シンポジスト◆ 金丸 敏幸 先生（京都大学）
植木 美千子 先生（関西大学）
南部 久貴 先生（滋賀県立伊吹高等学校）
指定討論者◆ 保田 幸子 先生（神戸大学）

17:00-17:10

閉会行事■ 講義室 E・F (207-1,2)

司会◆ 田村 祐（事務局長・関西大学）
挨拶◆ 水本 篤（副支部長・関西大学）

17:30-

懇親会■ 学園ホール1階 福井食堂（学内食堂）

司会◆ 谷野 圭亮（大阪公立大学高専）
挨拶◆ 橋本 健一（会場校・大阪教育大学）

お知らせ

- 参加者は必ず以下の URL から Peatix にアクセスし、事前に参加申し込みをしてください。
<https://let-kansai-2024-fall.peatix.com/>
- オンライン参加者には、前日までに Zoom のリンクを送信いたします。
- 会場は、大阪教育大学天王寺キャンパス西館です。最寄り駅は JR 環状線寺田町駅及び各線天王寺駅となります。
- 対面での参加者は、受付にて必ずネームホルダーをお受け取りください。
- 当日学内食堂（学園ホール1階 福井食堂）が営業していますのでご利用ください。会場付近のコンビニは徒歩5分前後のところに3件ございます。会場構内に自動販売機は利用可能です。
- キャンパス内は全面禁煙です。
- 発熱等、体調のすぐれない方は来場をご遠慮いただきますようお願いいたします。
- 懇親会は、学園ホール1階 福井食堂（学内食堂）にて開催いたします（先着40名、10月20日（日）締め切り）。参加申込フォームより申込のうえ当日受付にて参加費（一般3,500円、学生2,000円）をお支払いください。



会場への交通案内・会場案内図

学内には駐車スペースがありませんので、必ず公共交通機関をご利用ください。



スーパー英語.com が企画・編集した英単語帳発売!!

学生・ビジネスマン
必読!
赤セルシート付



世界史で学ぶ 教養の英単語

青山学院大学教授 永井忠孝

定価 1980円 (本体1800円+税10%)

ダイヤモンド社

Academic
Express 3

Academic Express 3 と組み合わせることで
語彙学習や理解度問題が連携可能。お楽しみに!

世界史の教養を身につけながら、IELTS と TOEFL® テストの頻出単語を学ぶ
『世界史で学ぶ教養の英単語 IELTS&TOEFL® テスト頻出単語 2120 語』
IELTS と TOEFL® テストの過去の 20 年のデータを徹底分析!

すべて英語で学べます

- ▶ レスラーから哲学者に転身した歴史上の人物は? (答は32ページ)
- ▶ みずから毒蛇に噛まれて亡くなった女王は? (答は64ページ)
- ▶ コロンブスがアメリカに到達するきっかけを作った旅行家は? (答は104ページ)
- ▶ キジ狩りがもとで命を落とした女帝は? (答は158ページ)
- ▶ 江戸幕府倒幕を支援したスコットランド商人は? (答は192ページ)
- ▶ ノーベル賞を二度受賞した世界初の人物は? (答は238ページ)
- ▶ 特許局に勤めながら大発見をした科学者は? (答は256ページ)
- ▶ 父の命日に死亡したイギリス首相は? (答は262ページ)
- ▶ 保険会社に勤めて無名のまま亡くなった世界的文豪は? (答は272ページ)

歴史上の偉人を英語で知っていますか?

Nebuchadnezzar II	Julius Caesar
Pythagoras	Muhammad
Aristotle	Genghis Khan
Confucius	Charlemagne
Gautama Buddha	Johannes Gutenberg
Emperor Shi Huang of Qin	Johann Wolfgang von Goethe
Cao Cao	Sigmund Freud



著者(青山学院大学教授 永井忠孝)よりメッセージ

本書は、英語を学びながら教養を学ぶ本です。効率的に英単語を学んでいるつもりが、実は効率的とはいばん縁遠い、でも本当は効率よりはるかに大切な、教養を学んでいる本です。英単語集の体裁をとることで、本は読まないが英語は勉強したいという昨今の多くの人々に読んでもらうことをねらっています。

本書は 150 の英文と対応する和文によって構成されます。各文章は、世界の人物や思想、歴史的な出来事を記述しています。1 つの英文を読みながら、8 ~ 10 語のアカデミック英単語を身につけていきます。本書を読むことによって、英単語を学びながら、世界や歴史についての教養を身につけ、ひいては英語を学ぶことよりも読書を通して教養を身につけることの大切さを知ってほしい、というのが著者の願いです。

4技能をバランスよく学習できるカリキュラムで、基礎力を養います。

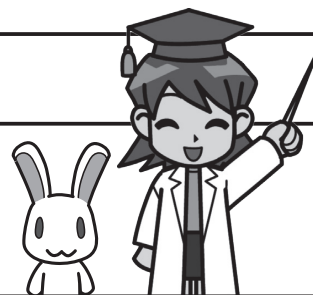
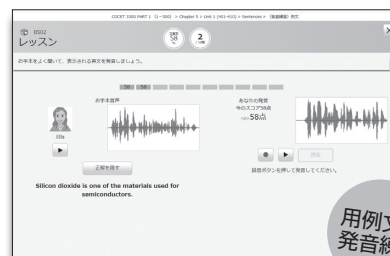
オススメコース

≫ TOEIC® L&R テスト トレーニングコース

- 2016年5月に改訂された新形式に対応した問題を収録しています。
- TOEIC® テスト形式以外の教材も豊富で、基礎力をつけながらスコアアップを目指せます。

≫ 理工系学生のための英語力強化コース

- 書籍のパートにあわせたカリキュラムです。
- 単語や用例文の発音練習もできます。

COCET3300
対応!単語学習
(英日訳)用例文の
発音練習

ATR CALL BRIXは、ATRにおける約40年の研究成果から誕生したe-ラーニングシステムです。

ATR

Advanced
Telecommunications
Research
Institute
International

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)

電気通信分野における基礎的・独創的研究の一大拠点として、産・学・官の幅広い支援を得て1986年に設立されました。3年後にけいはんな学研都市(京都府)に移って以来、けいはんなの中核研究機関としての役割を果たし、その最先端の研究内容と優れた研究成果により、世界的な評価を受けています。

TOEIC is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS).
This product is not endorsed or approved by ETS.

学修空間

FutureClassRoom®

内田洋行が提案する未来の教室

内田洋行は、学校、行政、学生、研究者とともに70年にわたって教室のあるべき姿を追求してきました。

「FutureClassRoom®」は、内田洋行が、学生、研究者の視点でデザインした未来の学修空間です。最先端のICT環境とフレキシブルな教育環境が、学生たちの学習・研究意欲を刺激します。「FutureClassRoom®」では、環境のご提案だけでなく、実際の授業を実践・体験していただくことも可能です。是非、未来の学修空間をご体感ください。

TOKYO

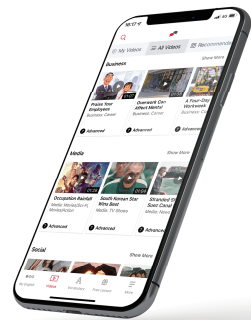


OSAKA



「フューチャークラスルーム®」は、学校関係者や企業・研究機関と一緒に新しい授業スタイルの研究開発・実証実験を行える場所として、新川本社ビル(東京都中央区)と大阪支店(大阪府大阪市)に設置しております。ぜひ、ご来館ください。(ご見学は事前予約制です)

学習者が一人一人楽しみながら 実践的な英語力を



※パソコンやタブレットでも
ご利用頂けます

リスニング

自然なスピード、単語弱点分析、オンライン辞書

単語学習

苦手単語の聞き取りと4択クイズ

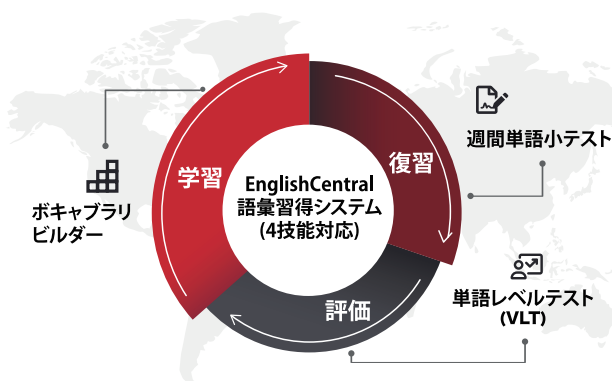
随時更新 30,000 本
短い動画で反復学習
文脈で学ぶ英語

発表

自由発話、自動文字起こし、AI 診断

音読

AI 発音評価、母語なまりを考慮した伝わりやすさ判定



豊富な動画の単語用例でボキャビル

45万フレーズの生きた動画単語用例、学習者別単語帳の自動生成、ボキャブラリビルダーで定着するまで反復

小刻みな確認と復習を促す小テスト

重要単語・TOEIC単語リスト、既修単語と毎週の学習単語をバランスよくミックスした自動小テスト生成・採点

学齢や英語力に合わせた単語リスト

- 重要単語3000 CEFR-J単語リストとNGSLに出現する頻出3000単語をCEFRランク順に並べ変えたリスト
- TOEIC単語 TOEICテストでよく使われる、NGSLには含まれていない英単語のリスト

※NGSLは一般的な英文に使用される92%の単語を効率的に網羅できる2800語のリスト [Browne, C & Currigan, B]

英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

強力な教員サポート

学校向けにLMS (学習管理システム) を標準搭載、クラスの課題設定管理と学習履歴や進捗状況の可視化。レポートはダウンロード可能。

安心の採用実績

グローバルユーザー数 **800万人** 国内教育機関数 **400以上**

イングリッシュセントラル



Email academic-ja@englishcentral.com
TEL 050-380-3236 (平日10:00-18:00)

AI 時代の良い書き手の育て方:教師が目を向けるべきこととは

保田 幸子 (神戸大学)

AI の自動添削の性能が劇的に向上する中、英語ライティング指導において AI ツールを活用する事例の報告も増えつつある。しかし、「自動添削」という言葉からイメージできるように、AI を活用した英語ライティング指導についての議論では、常に視点が「文章」や「作品」そのものに置かれ、「この文章はどこがおかしいか」「どこを直すべきか」が主な関心となっている。一方で、そのような視点で文章と向き合っていると、大事なことを見失ってしまうのではないだろうか。それは、文章や作品の向こうには「書き手」がいるということであり、教師（読み手）が本当に相手にすべきなのは、その書き手だということである。AI の自動添削機能に注目が集まる昨今、改めてそもそも私たちは「何のために書くのか」を考えることが重要ではないかと考えた。本講演では、AI 時代のライティング指導で教師が目を向けるべき 5 つのポイントについて参加者の皆さんと議論したい。

<講師プロフィール>

保田 幸子 (やすだ さちこ)

神戸大学大学院国際文化学研究科・国際コミュニケーションセンター教授
専門は、第二言語ライティング、アカデミックライティング、ジャンル分析

アカデミックライティングに関する研究・指導を専門とし、広く学外においても社会貢献活動に従事している。高校生を対象としたエッセイライティング指導、医師やエンジニアを対象とした科学論文執筆法に関する講演やセミナーを毎年数回担当している。

主な著書に、『「書く力」の発達：第二言語習得論と第二言語ライティング論の融合に向けて』（くろしお出版 2024 年）『英語科学論文をどう書くか：新しいスタンダード』（ひつじ書房 2021 年、大学教育学会 JACUE セレクション 2022 受賞）がある。研究成果は、Assessing Writing, Journal of Second Language Writing, TESOL Quarterly などの国際誌に掲載されている。

Enhancing Language Learning through Pre-recorded Video Presentations and Digital Platforms: A Multimodal Approach

録画済みビデオ・プレゼンテーションとデジタル・プラットフォームによる言語学習の強化：
マルチモーダル・アプローチ

Nozawa, Kazunori (Ritsumeikan University)

キーワード： Pre-recorded Video Presentations, Multimodal Communication, Digital Learning Platforms (Padlet)

1. Introduction

This presentation focuses on the merits and demerits of pre-recorded video presentations and their evaluations using tools such as Padlet and Google Forms based on the 2024 spring semester classes.

2. Participants and Methodology

There were a total of 174 participants in the Osaka and Kyoto campuses. They had three different majors from six different English classes in the 2024 Spring Semester. Although the number and the topics of pre-recorded presentations that each student or group member collaboratively created vary, all are used for creating and editing videos with video editors and evaluating with Padlet and Google Forms.

Table 1. Classes, Number of Presentations in Total, and Participants

Classes	No. of Presentations	Male	Female	Total
CoIAS Basic English	2	17	13	30
CoIAS Media English	3	14	14	28
CoL Academic Reading	1	15	16	31
CoL Academic Presentations	2	14	17	31
CISE English 104 (QF)	2	28	5	33
CISE English 104 (RF)	2	18	3	21

3. Teaching and Learning Tools

Textbooks, Smartphones/Laptop PCs, Students' chosen video editors, Padlet, and Google Forms

4. Conclusion

The analysis results of the post-class surveys indicated the effectiveness of teaching English in a multimodal style and active learning. As Ebadi & Ebadijalal (2020) and others claim, this approach garnered active participation from most students, who mostly expressed satisfaction with the projects, researching to get new information on the topics and diverse perspectives from fellow participants.

References

Ebadi, S., & Ebadijalal, M. (2020). The effect of Google Expeditions virtual reality on EFL learners' willingness to communicate and oral proficiency. *Computer Assisted Language Learning*, 33(5-6), 625-647. <https://doi.org/10.1080/09588221.2019.1595509>

能力の個体主義から相互行為主義へ：

複言語・複文化的観点から

From Individualism of Competence to Interactionism:
A Plurilingual-pluricultural Perspective

福島 祥行 (大阪公立大学)

1. はじめに

外国語の——とは限らず——教え手であるわれわれにとって、学び手の《能力》(なにかができること)をどのように考えるかは重要な問題である。CEFR (欧州言語共通参照枠) は、2001年の初版から、「複言語・複文化」および「行動中心」という考え方によって、《能力》の社会的構築性について示唆しており、2018年の補足版 Companion Volume (現行版は、2020年の改訂版)でも、上記の視点をさらに解説しているが、日本におけるCEFRの受容において、この点を重視する研究は少ない。そこで、本発表では、CEFRの文言を追いつつ、他分野の研究成果を援用することで、《能力》を個体主義的なものではなく、相互行為論的にとらえることの妥当性を主張する。

2. 複言語・複文化の《能力》と弱いロボットの思想

複言語・複文化において、さまざまな複言語・複文化経験によって得られた《能力》は、渾然一体となったひとつの複合体であって、個々の言語・文化能力は截然と分かちえないものである。その《能力》の発露の結果である発話の《意味》は「共構築」co-constructing されたものと説明される。このことは、あるコミュニケーションが成立するためには、その参加者(発話者および共発話者)の協働が必要であることを含意する。

上のことは、社会的ロボティクスの研究者である岡田美智男の提案した(弱いロボット)の、「独力ではできない「弱さ」を前提しつつ、他者の助力を引きだすことで目的を達成する」という思想と合致する。ここにおいて《能力》は、「それを発揮する個体の内部からあらわれる、個体への帰属物」とみなす個体能力主義ではなく、個体と、個体を取りまく環境との相互行為のなかで立ちあらわれるものである。

3. 結論

以上のことから、学び手の——そしてわれわれの——《能力》は独力では発揮しえない非個体的なものであり、他者との具体的コミュニケーションの場において社会的に発露する相互行為的なものであると主張できる。

参考文献

Council of Europe (2020). *Common European Framework of Reference for Languages: learning, teaching, assessment - Companion volume*, <https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4>.

福島祥行 (2022). ひとはことばの《意味》を知らぬままに話したす——記号の相互行為的生成の機序について——, 『Lutèce』, 49, 59-81.

福島祥行, 中條健志・大山大樹 (2020). 教師は学び手でなければならない, 『RENCONTRES』 34, 26-30.

福島祥行・中條健志 (2023). 教えあい/学びあいをつうじた文法学習と「文法」の探究, 『RENCONTRES』 38, 関西フランス語教育研究会, 47-51.

岡田美智男 (2024), 『(弱いロボット) から考える——人・社会・生きること』, 岩波ジュニア新書.

質問作りを取り入れた英語コミュニケーション I の授業： 読む前に挿絵を活用して

Making English Questions in English Lessons:
Using the Pictures before Reading the Passage

戸田 行彦 (京都外国語大学)

キーワード： 質問作り, Question Formulation Techniques (Q.F.T.), 挿絵

1. はじめに

平成30年に告示された現行の学習指導要領によると、高等学校においては、総合的な探究の時間のみならず、各教科においても探究することの重要性が述べられている。そこで、高等学校の英語の授業において、探究的な学びを行うことを目指し、ロススタインとサンタナ(2015)の質問作りの手法である Question Formulation Techniques (以下、Q.F.T.) を一部、英語コミュニケーション I の授業に取り入れて行った。挿絵の活用については、大下他 (2009) を参考にした。

2. 参加者と手順

参加者は、滋賀県内の高校生約 121 名であった。参加者は、英語コミュニケーション I というの科目 (3 単位) において、本研究に年間を通して 10 レッスン参加した。

手順は、①検定教科書の各パートに入る時は毎回、そのパートに掲載されている挿絵 (写真) について質問を作らせ、各自が作った質問をペアやグループで互いに尋ね合わせた。②各自が作った質問が、5W1H から始まる Open Question なのか Yes/No で答えられる Closed Question なのかを分類させた。③それぞれ Open Question は Closed Question に、Closed Question は Open Question に質問をそれぞれ変換させた。④それらの質問の答えは何なのか考えながら、各パートを読ませた。10 レッスンを終えた年度末に、1 年間取り組んだ Q.F.T の活動全般に関するアンケートを実施した。

3. 結果と考察

分析の結果、①質問を作る課題は、57%の生徒が自身の英語学習に効果的だったと回答している。②質問を分類する活動は、42%が肯定的な回答を得た。③質問を変換する活動は75%が肯定的な回答であった。それぞれ効果的かどうかというのは主観的なものであるが、③質問を変換する活動は頭を使うため、効果があると感じたものと考えられる。①②の活動は変換する活動に比べると比較的容易に取り組むことができたと観察からも見て取れた。また、④質問の答えが何なのか考えながら読ませたが、自身の考えた答えがほぼ毎回本文にあったと回答していたのは12%で、62%の生徒は、時々あったと回答している。残り約25%の生徒の考えた答えは見当違いだったと回答している。今後の課題として、このように答えた学習者の声を分析する必要がある。

参考文献

ダン・ロススタイン, ルース・サンタナ著, 吉田新一郎訳 (2015). 『たった一つを変えるだけ: クラスも教師も自立する「質問づくり」』新評論
大下邦幸編著 (2009). 『意見・考え重視の英語授業』高陵社書店

短大生のための英日翻訳授業のコツ:

AI 翻訳ソフトに頼らない仕組み

Tips of English-Japanese Translation Course for Junior College Students:
The Mechanism of Leading Students not to Rely on AI Translation Software

白石 よしえ (近畿大学)

キーワード: 英日翻訳授業, 参加型 翻訳ソフト

翻訳の授業が AI 翻訳ソフトの使用で英語を日本語に置き換える作業にならないよう教材と授業形態に関して工夫をした。教材は文脈から日本語を考える必要がある口語表現とし文構造 (ネクサス関係) が複数の英文を選んだ。授業形態は発言重視、クラス全員で翻訳を作成、その過程に参加することを求めた。どう考えればより適切な日本語に辿り着くか過程を問うことで AI 翻訳ソフトの使用に頼らせないようにした具体的内容を共有したいと思う。

中高でのハイパー・ドキュメントを利用した考える授業デザイン： 大学生による体験と評価

Thinking Secondary School Lesson Design, Utilizing a Hyper Document:
Experiences and Evaluations by University Students

溝畑 保之 (桃山学院教育大学)

キーワード： 一人一台端末, ペーパーレス, 思考力・判断力・表現力

1. 授業デザインの目的：個別と協働学習

発表者は **Universal Design** をテーマに ICT を利用する授業デザインを中高生用に作成した。その授業を、教職をめざす大学生に体験してもらった。本発表は、その反応から、この授業を考察するものである。日本の中学校、高等学校で行われる英語授業では、生徒一人ひとりが端末を使って学習を進めることができる。授業では、単なる知識の理解にとどまらず、考える力を重視し、生徒は自分で問題を解決したり、新しいアイデアを発見したりする機会を持つ。これにより、個別学習と協働学習の両方が促進され、生徒の自主性と協調精神が育まれることをねらった。

2. ハイパー・ドキュメントの利用

ハイパー・ドキュメントとして、Google スライドを核にし、Padlet、スプレッドシート、Canva、Google Forms をリンクした。基本は、Google スライドでのミニ講義が先導する。Padlet では、小グループで画像検索を中心に、身近な UD 製品を収集する。スプレッドシートでは、収集した製品よりベスト 3 を選んで、3 つの観点からそれらに点数を付け、ベストな製品を決定する。ハイパー・ドキュメントを Canva を使って、他のグループにプレゼンする。最後は、Google Forms で授業の振り返りをおこなう。この一連のハイパー・ドキュメントでの活動を通じて、英語力やデジタルツールの活用能力、協調精神を養う。3 コマでの授業展開をペーパーレスで行うことで、資料の配布回収の手間が省け、また、散逸が防げる。

3. ミニ講義、活動と音読

授業は、ミニ講義と活動が交互に行われ、まずは新しい知識を学び、活動のやり方を知り、実際に活動することで理解を深めるよう工夫している。活動には、観察、思考、探求の力を段階的に発揮する **see-think-wonder** (Richart et al., 2011) と思考・判断・表現力を育む **group-describe-name** (Marschall & French, 2018) を実施した。また、スプレッドシートを共同編集し、ICT をアウトプットに活用しながら言語面も鍛えるものも配置した。適切な段階で語彙、表現の音読を行う。このようにして、生徒の英語力に加え、協力して学ぶ力や批判的思考力も同時に育むことを目的にしている。

4. 結果と考察

参加した 22 名の大学生からの Google Forms の振り返りでは、「英語力だけでなく、協力して学ぶ力や批判的思考力も同時に育まれる」など、概ね好意的な反応があり、有意義な改善意見も得られた。

参考文献

- Ritchhart, R., Church, M., & Morrison, K. (2011). *Making Thinking Visible: How to Promote Engagement, Understanding, and Independence for All Learners*. Jossey-Bass.
- Marschall, C., & French, R. (2018). *Concept-Based Inquiry in Action: Strategies to Promote Transferable Understanding*. Corwin.

英語学習を習慣づけるために対面授業で e ラーニングを使用する利点

The Advantages of Using E-learning in Face-to-Face Class to Make a Habit of Studying English

今村 梨沙 (関西大学 非常勤講師)

キーワード : e ラーニング, LMS, 対面授業

e ラーニングを対面授業の教材として使用することは、教壇に立つ教員からは賛否両論であるかもしれないが、コロナ禍では大きな役割を果たしたといえるだろう。発表者は、成績に算入するか否かを問わず、e ラーニングを対面授業内で取り扱うことが、英語学習者の英語学習習慣を身に付けるきっかけとなる可能性を感じた。そこで本発表では、対面授業であっても、e ラーニングを授業内で使用する際の利点を実践例に基づき皆さんと共有したい。

「AI時代のライティング活動:教師と学習者の立場から考える」

近年、英語教育におけるAI活用が盛んに議論されている。特にライティングは、機械翻訳や自動添削の精度の向上により、影響が顕著である。本シンポジウムでは、はじめに、生成AIの登場がライティング指導に与えた影響について概観する。次に、高校・大学という異なる校種のライティング指導における生成AIの活用例を紹介する。これらを通して、教師と学習者双方にとってのAI活用の利点と限界点、そして今後の可能性について議論する。

<講師プロフィール>

金丸 敏幸 (かなまる としゆき)

京都大学国際高等教育院准教授。博士(人間・環境学)。外国語教育・理論言語学・自然言語処理の知見を活用し、カリキュラム、教材、指導法の開発や教育評価の研究に携わる。AI時代における外国語教育のあり方について、論考、講演を多数行っている。近著には『英語教材の最前線(第4章執筆)』がある。

南部 久貴 (なんぶ ひさき)

滋賀県立伊吹高等学校教諭。修士(教育学)。ICTを活用した教育に関心があり、2022年度には、滋賀県のICTコアティーチャーを務めた。著書に『ChatGPT×教師の仕事』、『英語教師のためのChatGPT活用ガイド』(ともに明治図書)がある。

植木 美千子 (うえき みちこ)

関西大学外国語学部准教授、博士(外国語教育学)。
海外留学や外国語学習における動機づけや不安など学習者情意を研究している。また動機づけを高める授業実践にも関心が強く、近年は英語ライティングクラスを担当し、AI技術を活用して学習者のエンゲージメントを高める方法について実践的な授業を行っている。主著には『L2 Selves and Motivation in Asian Contexts(第5章担当)』がある。